

小学6年1組 外国語活動学習指導案

指導者 加藤 君江・片寄メーガン

積極的にアルファベットの小文字と“Do you have ~?”を使って尋ね合う活動を行い、アルファベットの小文字カードを単語に並び替えるという展開を構想したことは、修学旅行で学習して得た情報を外国の人に積極的に伝えようとする意欲を高めるのに有効であったか。

1 単元名 伝えようJapan ~Lesson 1 Do you have “a” ? ~

2 単元のねらい

アルファベットの小文字を活用し、修学旅行で見学してきたことをリーフレットにして外国の人に伝える。そして最後はクラスの一冊の“JAPAN”辞書としてまとめる。自分の作成したいリーフレットの言葉で“Do you have ~?”を使って英語でのやり取りをし作成していくことで、アルファベットの小文字と“Do you have ~?”を使って積極的にコミュニケーションをしようとする。

3 授業の構想

(1) 以下に示すふりかえりは、児童Aが5年生の時に外国の方に「松江のおすすめの場所」を“I like ~.”を使って伝えたものである。

私は、アメリカの方とキューバの方に松江のよさを紹介しました。質問もしました。とてもわかりやすく説明できたと思います。きんちょうするかと思ったら、ほとんどきんちょうしませんでした。今回のおかげでわたしの人見知りがなおったかも！？ (児童A)

単元が始まる時、外国の人を目の前にして話ができるかどうか不安であった児童Aが、活動を重ねるたびに松江のことを伝えようとする気持ちを高めていった。そして、英語を使って相手に伝えることができたという状況であり、自分自身を見つめることができた一例である。単元の終末で行うコミュニケーション活動は、慣れ親しみの活動によって支えられている。慣れ親しみの活動を十分に行っていくことは、コミュニケーション活動の成功体験を支える。そのため子どもがもっとやってみたいと思うような活動の工夫や、教材の工夫、提示の工夫は、学び続けようとする授業を構想していくために大切である。

単元の終末を意識しながら、一人一人が目的意識をもち、次時に向けての課題を明確にしながらか活動を行う。その手立てとして、ふりかえりパスポートを活用し、めあてを明確にし、1時間の活動を行った自分を見つめて次の時間へ繋げていきたい。そして、指導者は児童のふりかえりを点検・分析することで一人一人がどのような考えなのか、次はどうしたいのか把握していく手立てとしたい。以下のふりかえりは、指導者が次時の授業に生かした一例である。

今日の外国語のめあては月の英語の言い方に慣れることでした。わたしは前と違ってずい分できるようになりました。まだしっかりと覚えていないのでもう少し慣れが必要です。多分最初にJがついている月がだめです。ゲームをしていたときも順番がまったく違っていました。10月と8月が逆だったのもう少し慣れたいです。(児童B)

これは、単元の終末に行うコミュニケーション活動「友だちの誕生日を聞く」ために次時に向けて問いをもち追求する姿であると考え。指導者がめあてを明示し、その目標への成長を子どもが実感できる評

価の工夫も手だてとして不可欠である。

- (2) 昨年度、本クラスの児童は、“Hi, friends! 1 Lesson 4” 「松江のよさを外国の方に伝えよう」の単元において、外国の方に松江のよさを“I like～.”を使って英語で伝える活動を行った。本単元では終末で外国の方へ日本のことを伝える。ここで言う日本のこととは、修学旅行で行った京都や奈良のことである。文字を扱うことで昨年度よりも難しくなるが、自分たちにとって思い出深い修学旅行で学んできたことについて、小文字を使ってリーフレットを作成する。伝えたい相手が久しぶりに再会する外国の方ということで意欲をもち活動するであろう。そして、“Hi, friends! 1 Lesson 6” 「6年生にメッセージを送ろう」の単元とも繋がっている。この活動ではアルファベットの大文字を並べ6年生へ“N I C E!”などのメッセージを送った。一人一人が相手のことを考えてアルファベットでメッセージを送ったこの活動は心温まる時間となった。自分が欲しいアルファベットは指導者からもらう活動であったが、今回は友だちどうしで行う。このように、相手や目的が変わっても今までの活動を土台にして活動を仕組むことで、子どもたちは見通しと意欲をもちコミュニケーション活動に取り組むことができるであろう。また、6年生になり社会科では歴史を学習している。奈良や京都の歴史の学習も合わせながらリーフレットに活用したい。国語科では「わたしが修学旅行で最も印象に残ったのはこの場面！」という単元で、伝えたいことが相手により明確に伝わるように、内容や話し方を工夫しながら話す活動を行っている。様々な教科と関連させて外国語活動の単元を構成していくことは、より深まりのある活動を行うことができると考える。
- (3) 本単元は5時間の構成とした。“Hi, friends! 2”のテキストを参考にして単元を構成する。本単元の使用表現は“Do you have ～?”とアルファベットの小文字である。“Hi, friends! 2”のテキストを身の回りの活動に置き換えてみることで、より活動に関心・興味を抱いて学び続けようとするであろう。また、コミュニケーション活動に必然性をもたすために、一人一人の伝えたい単語のアルファベットをバラバラに封筒に入れておく。その際いくつかのアルファベットを意図的に抜いておく。並べてみると伝えたい単語にならないので、自分が表したい単語になるように欲しいアルファベットの小文字カードを“Do you have ～?”を使って集めて完成させる活動を行う。そのために、一人一人がどんな単語を選んでいるのか、何を伝えたいのか指導者は把握しておき、一人一人に合わせた活動を仕組む手立てを行いたい。そして、伝えたい言葉の中に相手意識をもち、児童が思いを込めて日本の文化や歴史の中心である京都や奈良のことを積極的に伝えて欲しいと願う。今回小学校で行うアルファベットの認識を1年後の中学校での学習技能の「書くこと」「読むこと」へ繋げていきたい。

4 展開計画（全5時間 本時4／5）

| 次 | 主な学習 | 時 | 具体的な学習・内容 |
|---|--|---|--|
| 1 | ・世界には様々な文字があることに気づき、修学旅行で見学した京都や奈良の場所の英語での言い方を知ろう。 | 1 | ・ビデオレターを見て修学旅行で見学したことを外国の人へ紹介するという活動の見通しをもち、見学地の英語での言い方を知る。 ・音声教材で世界には様々な文字があることに気づき、アルファベットの小文字を知る |
| 2 | ・アルファベットの小文字とその読み方を一致させ、あるものを持っているかどうかを尋ねたり答えたりする表現を言ったり聞いたりしよう。 | 2 | ・アルファベットの歌を歌う。 ・ミッシングゲーム・アルファベットラッキーゲーム・アルファベット伝言ゲームをする。 |
| | | 3 | ・アルファベットの歌を歌う。 ・持っているアルファベットは何でしょうゲームをする。 ・アルファベット見付けをする。 |

| | | | |
|---|--|---|--|
| | ・積極的にアルファベットの 小文字を読み、あるもの を持っているかどうか尋ね たり答えたりしよう。 | ④ | ・アルファベットの歌を歌う。 ・アルファベットツリーの 読み聞かせを聞きアル ファベットパズルを する。 ・アルファベットを並 び替えてリーフレット を作成する。 |
| 3 | ・外国の人に修学旅行 で見学してきた京都 や奈良のことを伝え よう。 | 5 | ・今まで考えてきたよ りよい伝え合いを大 切にしながら、京 都や奈良のことを紹 介する。 |

5 本時の学習

(1) ねらい

積極的にアルファベットの小文字を読み、あるものを持っているかどうか尋ねたり答えたりしようとする。

(2) 展開

| 学習場面と子どもの取組 | 教師の支援と願い・評価 |
|---|--|
| 1. 挨拶をし“アルファベットソング”を歌う。 2. アルファベット小文字クイズをする。 3. アルファベットツリーの読み聞かせを聞き、大文字と小文字のパズルを行う。 | ・歌を歌いながら活動の雰囲気をつくる。 ・画像を見ながら、アルファベットの小文字と読み方を一致させる。 ・ゲームの仕方を指導者とALTが行い。活動のイメージがもてるようにし、自信をもって取り組めるようにする。 |
| 積極的に“Do you have～?”を使ってアルファベットを集めよう。 | |
| 4. リーフレットを作成するために必要な単語のアルファベットを確認する。 ・アルファベットツリークイズを行う。 5. 自分の紹介したい京都や奈良のリーフレットを作成する。 ・アルファベットの小文字を並び替え、リーフレットを完成させるが、並び替えた時にないアルファベットを“Do you have～?”と尋ねながら集める。 | ・アルファベットツリーと関連させたパワーポイントを使い、リーフレットを作成するために必要な単語をクイズで行いながらアルファベットの小文字とその読みを一致させる。 ・黒板を見ながらアルファベットの並び替えが行えるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">評価の観点（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）</p> <p>積極的にアルファベットの小文字を読み、あるものを持っているかどうか尋ねたり答えたりしようとする。</p> <p>【評価方法 行動観察・作成物・ふりかえり】</p> <p>支援</p> <p>自分の集めたいアルファベットが探し求められない場合、指導者が事前に用意した所へ取りに行く。</p> </div> |
| 6. 本時のふりかえりをし、発表する。 ・本時のめあてにそって振り返り、次の時間に向けての思いを発表する。 | ・次時は外国の人に紹介することを知らせ、相手に応じたコミュニケーションの工夫の在り方を学級全体で共有できるようにする。 |

(3) 本時で目指す子どもの姿

◎自分の紹介したい言葉のアルファベットの小文字とその読みを一致させている姿

◎積極的に欲しいアルファベットを持っているか尋ねたり答えたりしようとしている姿